

「教育DXを支える基盤的ツールの整備・活用事業」
(教育データの利活用の推進事業)

地方自治体における教育データ活用推進のための調査研究 成果報告書【概要】

みずほリサーチ&テクノロジーズ

デジタルコンサルティング部

2025年3月31日

ともに挑む。ともに実る。

MIZUHO



1. 本事業の趣旨・目的・概要	
1.1 本事業の趣旨・目的	P.3
1.2 本事業の概要	P.4
2. 地方自治体におけるデータ分析の後方支援	
2.1 概要	P.6
2.2 3自治体への后方支援	P.7
2.2.1 岩国市教育委員会の取組	P.8
2.2.2 鹿児島市教育委員会の取組	P.14
2.2.3 松戸市教育委員会の取組	P.19
2.3 文部科学省教育データ利活用ワークシートの作成	P.25
2.4 コミュニティ開催	P.27
3. 既存ダッシュボードのテンプレート化	
3.1 概要	P.29
3.2 ダッシュボード（テンプレート）画面イメージ	P.30



1. 本事業の趣旨・目的・概要

1.1 本事業の趣旨・目的

- 本事業は地方自治体の抱える課題解決に向けた有効な施策実施のためには、データを活用した根拠に基づいた政策立案を進めることが不可欠という基本的な考えに基づき、効率的に各自治体の教育データ利活用を推進するために、自治体の取組を支援しその成果を共有するとともに、ノウハウや知見を集約することを目的とした。

背景

- ✓ 地方自治体の抱える課題解決に向けた有効な施策実施のためには、データを活用した根拠に基づいた政策立案を進めることが不可欠である
- ✓ 従来の学校教育では紙資料が中心だったが、1人1台端末の導入等により紙では取得できなかったものを含め様々なデジタルデータが集まってきている今、教育データの活用を行うことで、根拠に基づいた政策立案や効果的・効率的な指導・支援が可能になることから、教育データの活用が始まりつつある。
- ✓ しかし、データ活用を始めるには、準備段階での人的・経済的負担が大きいことから、各自治体がそれぞれゼロからデータ活用の在り方を検討するのは非効率であり、重要性は分かっているにもかかわらず踏み切ることのできない原因の一つと考えられる

事業目的

自治体の取組を支援しその成果を共有するとともに、
ノウハウや知見を集約することで
国全体として教育データ活用の取組を前進

- 本事業の目的を達成するために、主として①地方自治体におけるデータ分析の後方支援、②すでに自治体で開発されているダッシュボード（以降、既存ダッシュボード）のテンプレート化を実施

事業目的

自治体の取組を支援しその成果を共有するとともに、
ノウハウや知見を集約することで
国全体として教育データ活用の取組を前進

1

地方自治体におけるデータ分析の
后方支援

- ✓ 3自治体への后方支援
- ✓ 文部科学省教育データ利活用
ワークシートの作成
- ✓ コミュニティ開催

2

既存ダッシュボードの
テンプレート化

- ✓ 既存ダッシュボードについて
のヒアリング
- ✓ 既存ダッシュボードのテンプレ
ート構築



2. 地方自治体におけるデータ分析の 後方支援

- 教育データ利活用に関心のある自治体が実際に取り組を進めるため、以下3つの後方支援を行った。
 - ① 3自治体への後方支援
 - 教育データの利活用に関心のある3自治体に対し、各自治体の教育課題を踏まえた教育データ利活用の検討、教育委員会向けダッシュボードの構築等の後方支援を実施。
 - ② 文部科学省教育データ利活用ワークシートの作成
 - 教育データ利活用に関心のある様々な自治体が参照するためのドキュメントを作成。まず、初期ドキュメントを作成したうえで、①に参画した3自治体が教育データ利活用の検討を進める際に実際に活用し、そのフィードバックを踏まえ、ブラッシュアップを行って完成させた。
 - ③ コミュニティ開催
 - 教育データ利活用に関心のある様々な自治体の参考となるよう、希望する全ての教育委員会向けに、地方自治体が集まるコミュニティを開催。

2.2 3自治体への後方支援

- 教育データの利活用に関心のある地方自治体から、後方支援を行う3自治体（岩国市教育委員会、鹿児島市教育委員会、松戸市教育委員会）を選定し、各自治体の教育課題を踏まえた教育データ利活用の検討、ダッシュボード（※）の構築等を行った。（3自治体の詳細は次スライド以降参照）
- 当該3自治体に対しては、データ利活用に取り組むために必要な基本的な知識や今後必要となるプロセス等の説明、あるいは地方自治体間での取組経過や検討課題の共有を行うための研修会をオンラインで計4回開催。

（※）ダッシュボードとは、児童生徒に関する学習面、生活・健康面のデータをはじめとする幅広い教育データを集約して可視化し、わかりやすく簡便にデータを把握することができる機能。使用者は、教育委員会、学校教職員、児童生徒など様々考えられるが、本事業では教育委員会向けのダッシュボードを構築した。

（参考）研修会の実施状況

タイトル	開催時期	主なアジェンダ
第1回 データ分析の基本的な知識＋検討プロセス	2024年8月7日 13:00~15:00	1. 事業趣旨説明 2. 教育データ利活用に関する説明 3. 教育データ利活用に関するマニュアル説明 4. 今後の検討プロセスに関する説明
第2回 データ分析の目的・仮説の検討	2024年9月5日 11:00~12:00	1. データ分析の目的・仮説検討に関する説明 2. ワークシートを用いた試行＋試行結果を踏まえたディスカッション
第3回 データ項目の検討	2024年9月27日 15:30~16:30	1. 仮説に合致するデータ項目選定に関する説明 2. ワークシートを用いた試行＋試行結果を踏まえたディスカッション
第4回 ネクストアクションの設定	2025年3月4日 13:00~14:00	1. ネクストアクションの検討に関する説明 2. 各自治体取組成果の発表 3. SDAからの講評

2.2.1 岩国市教育委員会の取組

事業参画の期待や意図

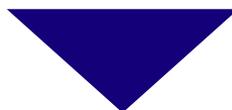
教育データ利活用における課題

- 教育行政施策の目標や課題に対して行われる取り組みは、可視化・数値化することが難しく、成果を適切に評価する指標を持ちにくい。
- 教育行政施策の課題に関係する項目が含まれるデータがそもそも存在しなかったり、あっても元のフォーマットのままで活用できるデータは非常に少ない。その反面で、新たにデータを収集することなどによる教職員の負担はできるだけ避けたい。

本市の教育行政施策の課題

- 子供の資質・能力の向上と、それに影響を与える教員の授業力の向上を図りたい

補足：当初は、教員の授業力向上が先行する形としていたが、本事業を進める中で、既存データから指標が得られそうな子供の資質・能力を見る方向に落ち着く。授業力そのものは概念であって、それそのものに関連する指標が現時点では得られないことに気付かされた。



- ・教育行政施策の課題の解決に対してデータ利活用は有効な手段となるかを確認する
- ・データ利活用経験の無い状態でも、専門家など外部人材を活用することで実践可能か
- ・今あるデータの範囲でどこまでできるか

ロジックツリーの説明

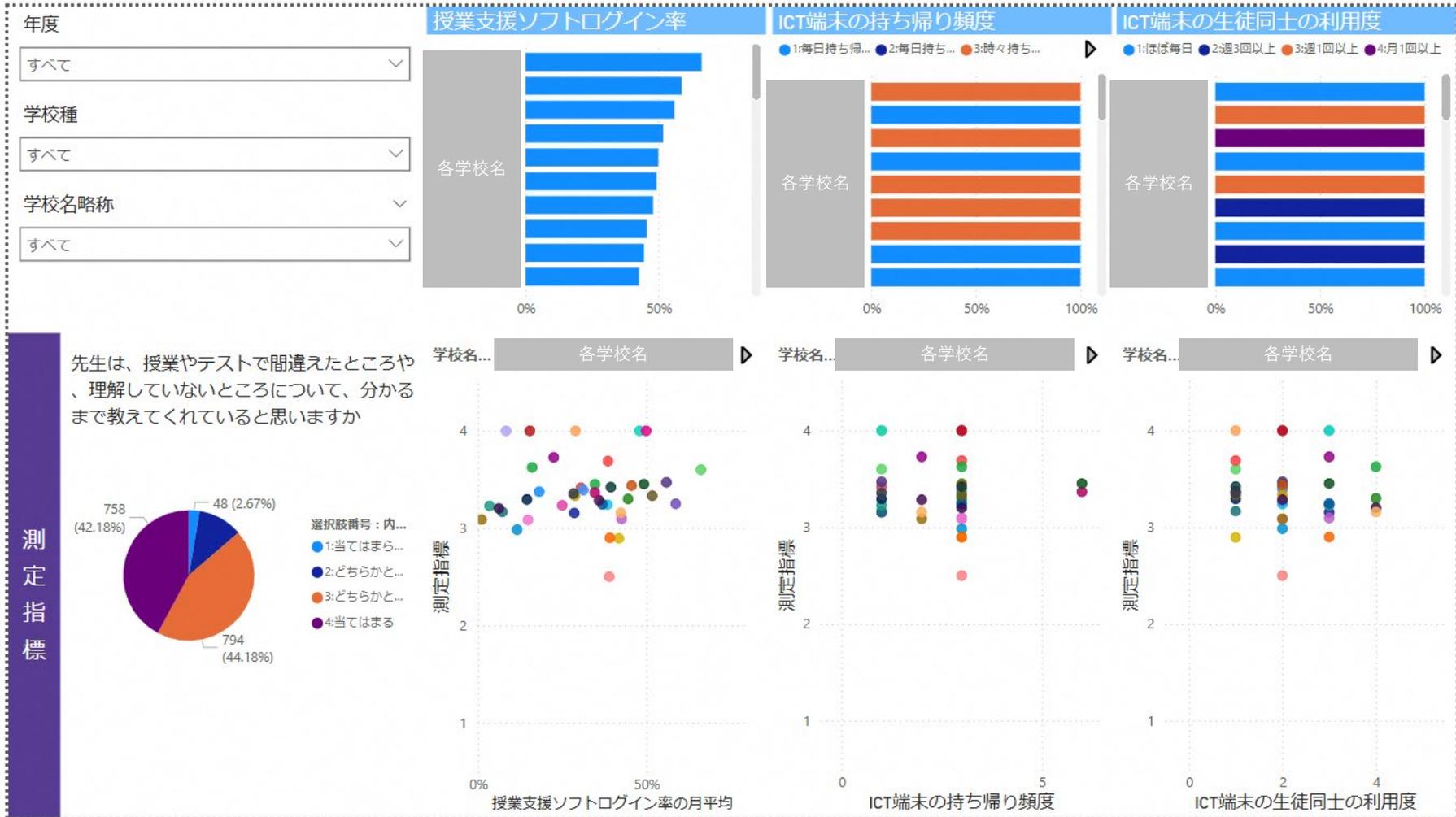
データ分析の目的	子供の資質・能力の向上と、それに影響を与える教員の授業力の向上を図りたい				
データ分析の測定指標	子供から見た授業に対する満足度（授業力は概念であって、指標となり得るのはその構成要素でありその一つが満足度）				
データ分析仮説	教員の働き方 教員の時間外在校時間数が少ない学校ほど、授業に対する子供の満足度が高いのではないか	教材研究 教員の教材研究が積極的な学校ほど、安心して授業が受けられるため子供の満足度が強いのではないか	外部人材活用 教員業務アシスタント、ICT支援員などの外部人材が多いほど、教員の負担が減り、授業に対する子供の満足度が高まるのではないか	ICT端末活用 ICTの活用率が高い学校ほど、授業に対する子供の満足度が高いのではないか	不登校 不登校数が少ない学校は、授業に対する子供の満足度が高いのではないか
データ項目	教員の時間外在校等時間数	45時間超えの教員の時間外在校等理由 ※理由を把握できるデータが他に無かった	外部人材活用数および外部人材活用日数	アプリログイン回数、端末持ち帰り頻度、生徒同士の利用度	不登校児童生徒数
分析結果の概要	画面① 仮説通りの分析結果が確認できた	画面① 仮説通りの分析結果が概ね確認できた（特に校務分掌に時間をかけている学校ほど、満足度が低い傾向にあることがうかがえる）	画面② 一部仮説通りの分析結果が概ね確認できた（質問紙調査は4月実施の結果であるため、満足度が低い傾向にある学校において比較的に手厚く外部人材が活用されていると読み取れる）	画面③ 仮説通りの分析結果が確認できた（ログイン率が高い学校ほど、満足度が高い傾向にある）	画面④ 追加の情報収集の必要性あり
期待されるネクストアクション	教員の負担の軽減策の検討	※データ粒度の向上 教員の教材研究時間の確保に向けた施策の検討に資する調査 残業時間理由の調査	外部人材を活用していない満足度の低い学校における外部人材の活用の検討	※データ粒度の向上 ICT端末活用場面ごとの割合調査	授業の満足度の低い学校の満足度を高める

2.2.1 岩国市教育委員会の取組

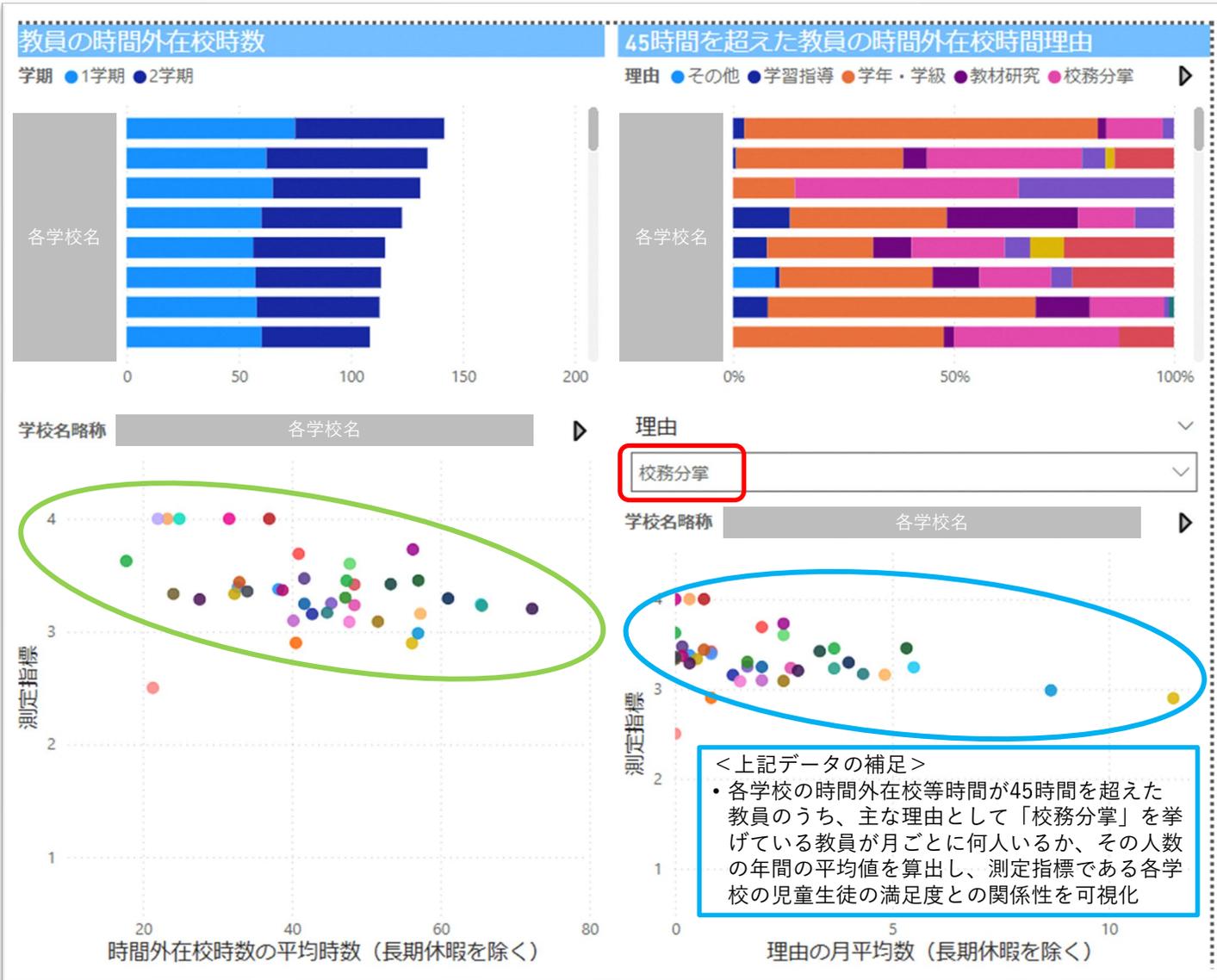
主な分析結果とネクストアクション

- 【データ仮説】 ICTの活用率が高い学校ほど、授業に対する子供の満足感が高い
- 【分析結果①】 ログイン率が高い学校ほど、満足度が高い傾向にある
- 【分析結果②】 ICT端末の持ち帰り頻度については、顕著な傾向は見られない
- 【分析結果③】 ICT端末の生徒同士の利用度が高い学校ほど、満足度が高い傾向がある

【ネクストアクション】
 ※データ粒度の向上
 ICT端末活用場面ごとの割合
 調査



主な分析結果とネクストアクション



- 【データ仮説】 教員の時間外在校時間数が少ない学校ほど、授業に対する子供の満足度が高いのではないか
- 【分析結果】 時間外在校時間が長い学校ほど、満足度が下がる傾向にある

【ネクストアクション】
 教員の負担の軽減策の検討

- 【データ仮説】 教員の教材研究に積極的な学校ほど、安心して授業が受けられるため子供の満足度が強いのではないか
 - 【分析結果】 残業時間理由ごとに傾向が異なることがうかがえる
- ←ちなみに仮説にはないが、「校務分掌」に時間がかかっているほど、満足度が下がる傾向が見られた。

【ネクストアクション】
 ※データ粒度の向上
 教員の教材研究時間の確保に向けた施策の検討に資する調査
 残業時間理由の追加調査

2.2.1 岩国市教育委員会の取組

今後の展望

【事業の所感】

分析結果からの新たな気づき、発見

●不登校児童生徒数と満足度の関係のように、発生件数だけでは、学校規模に差がある学校同士で比較しにくいものもあるため、児童生徒数など他の指標も取り入れたクロス集計ができればよかった。

●「教員の働き方」と「外部人材活用」のように、独立した仮説として設定をしたが、教員の働き方には外部人材の活用状況も影響するなど、指標同士にも関係性があるものがあり、それらをかけ合わせることであればより興味深い結果が得られたかもしれない。単純なロジックツリーからより複雑なものにも挑戦してみたい。

データ利活用を本事業で行ったことによる成果

●子供の満足度を高めるために有効と考えられる取組や、それに向かうために必要な取組などをネクストアクションとして整理することができた。

データ利活用に取り組んだ中での課題・大変だったこと

●仮説設定に時間をかける（かかる）

作業工程の中で、特に仮説を立てる作業に時間を要した。

その反面で、仮説の設定が最も重要な作業で、仮説の設定を中心にデータの確認や目標の修正が行われていく感覚があった。気付いたこと：仮説の検討を行う中で、目標の修正が必要になる場合もある。また、この過程でどのようなデータが必要になるかも同時に見えてくる。そのため、（目標の修正）⇔仮説⇔既存データとの相性確認 を繰り返し行うこと。

【今後につなげたいこと】

データ利活用において改善したいプロセス

●教育委員会内の動機付け

「データ分析の目的」の設定が教育委員会がデータ利活用に取り組む動機となるため、十分な議論を経て設定したかった。

●教育行政の課題意識の定着

仮説の設定において課題に影響を与える因子が何であるかを考えるとき、一人の想像の範囲ではおのずと限界がある。定性的で線引きの難しい教育分野においてこそ、経験や視点の違う者同士が複数集まって意見を出し合うことが本当に大切であると感じた。

●データの選定

「教員の時間外在校等理由」は45時間を超えた場合の理由を調査したものであるため、データ粒度が低い。正しい分析結果を得るためにも45時間未満のデータが欲しいところだが、存在しない。しかし、新規に取得する場合の現場の負担は避けたいため、他の存在するデータに置き換える等の対応も、仮説段階での掘り下げをもっと行えば可能だったかもしれない。

今後の展望

【データ収集・利活用における留意点など】

教育委員会内にしっかり動機があること

●解決したい明確な課題とそれを解決したいという意思を持つ「動機」がデータ利活用に取り組む出発点になる。
また、余りにも大きなテーマや、曖昧な表現しかできないような目標を設定してしまうと、その後の深堀等する際につまずくため、しっかり議論し、ある程度実現可能で具体的な目標を設定すべき。

▽本市の反省▽

しっかり議論しないまま事業参画してしまったため、途中で目標を修正することになり、データが得やすい無難なものとなった。（しかし、初めてのことなので、これはこれでよい経験となった）

まずは小さな成功から

●動機付けがしっかりできていれば、分析の結果や、期待されるネクストアクションが小さいものであったとしても、ネクストアクションを見つけて実行できれば成功体験となり、次のデータ利活用の意欲へとつながると思う。

▽本市の反省▽

本市では残念ながら、課題解決にデータを利用しようという動機がもともとあったわけではないため、関係者にネクストアクションを情報共有したところで、課題解決に結びつくか懐疑的である。

今回の事業参画を機に、データ利活用への理解を広めたい。

2.2.2 鹿児島市教育委員会の取組

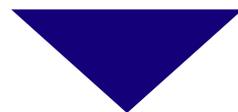
事業参画の期待や意図

教育施策の面から

- 教育の目標が、人格の完成をめざしたものであり、資質能力や態度の育成に重きが置かれており、これらが可視化・数値化することが難しい性質のものであることから、評価方法や指標の設定が難しい面があり、教育データに基づいた分析や政策形成等のEBPMが十分に行われにくい面がある。

教育行政組織としての面から

- 教育委員会には、事業計画の立案及び成果の指標として、多様なデータが定期的あるいは適時、収集されているが、それらの多くは散在しており、加えて所管課がそれぞれ所有していることから、データ間の相関等の分析が適切に行われ、その結果が施策・事業へ十分に反映されているとは言い難い面がある。



児童生徒の「自己肯定感の状況」と「取り巻く環境」の関係について、教育委員会各課が所管している多様なデータを基に、対人関係などの人的要因及び学習状況やICT活用状況などの学習環境要因について、想定される仮説を立て、データの相関等の分析を通して明らかにすることで、その結果をエビデンスとして、各学校にとって有効な支援策の検討を行うとともに、教育行政における施策に反映していく。

2.2.2 鹿児島市教育委員会の取組

ロジックツリーの説明

データ分析の目的

「未来を創造する力」を育むため、児童生徒の非認知能力（本年度は自己肯定感に着目）を向上させる

データ分析の測定指標

児童生徒の自己肯定感（「自分には、よいところがあると思いますか」）

データ分析仮説

青少年課の所管データ	学校教育課の所管データ	総務課の所管データ	学校ICT推進センターの所管データ	補足 全国学調（4月）と独自質問（1月）の推移
児童生徒が、クラスメイト・教員から理解されていると感じるほど、自己肯定感が高い	児童生徒が、互いを認め合いつつ主体的に学ぶ姿勢があるほど、自己肯定感が高い	児童生徒の家庭環境と、児童生徒の自己肯定感は、必ずしも関係しない	ICTの活用率が高い学校である程、児童生徒の自己肯定感も高い	年度を通じ学級経営等を行う過程で、児童生徒の自己肯定感の状況や取り巻く環境が変化する

データ項目

【独自調査質問】 【全国学調質問】	【独自調査質問】 【全国学調質問】	【要保護・準要保護対象の児童生徒の割合】	【ICT活用に関するデータ（ロイロノート/デジタルドリル/デジタル教科書）】	【独自調査質問】 【全国学調質問】 (回答割合の変化)
----------------------	----------------------	----------------------	--	-----------------------------------

分析結果の概要

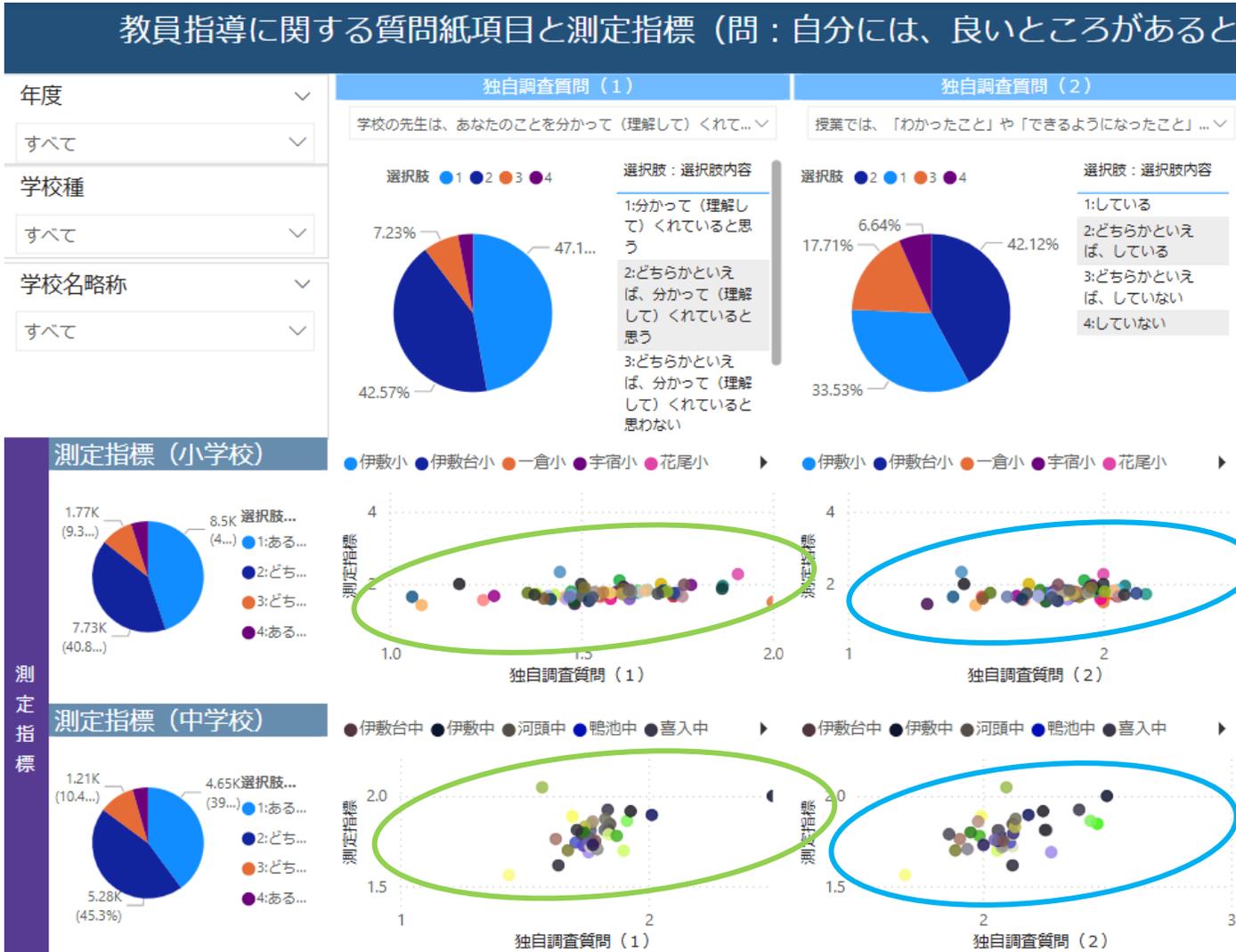
画面②	画面②	画面③	画面④	画面⑤
仮説通りの分析結果が概ね確認できた	仮説通りの分析結果が概ね確認できた	仮説通りの分析結果が概ね確認できた（明確な傾向は窺えなかった）	明確な傾向が窺えなかったため、継続してデータ収集を実施する必要性あり	学校や設問によって、回答割合の増減の変化が窺えた

期待されるネクストアクション

クラスメイト・教員との交流や信頼構築に資する取組（生徒ほりサ指導の強化を検討	互いを認め合いつつ主体的に学ぶ姿勢を育むような学習指導を検討	家庭環境が児童生徒の自己肯定感に必ずしも関係しない点を逆説的な説明材料とし、施策を検討する	※データの蓄積特にデジタル教科書について、更なるデータ蓄積を実施	回答傾向が大きく変化した学校の取組を確認し、示唆を得る
--	--------------------------------	---	----------------------------------	-----------------------------

2.2.2 鹿児島市教育委員会の取組

主な分析結果とネクストアクション



【データ仮説】
 児童生徒が、クラスメイト・教員から理解されていると感じるほど、自己肯定感が高い

【分析結果】
クラスメイト・教員から理解されていると感じるほど自己肯定感が高いという傾向が、小学校・中学校共に(弱く)窺えた

【ネクストアクション】
 クラスメイト・教員との交流や信頼構築に資する取組 (生徒指導) の強化を検討

【データ仮説】
 児童生徒が、互いを認め合いつつ主体的に学ぶ姿勢があるほど、自己肯定感が高い

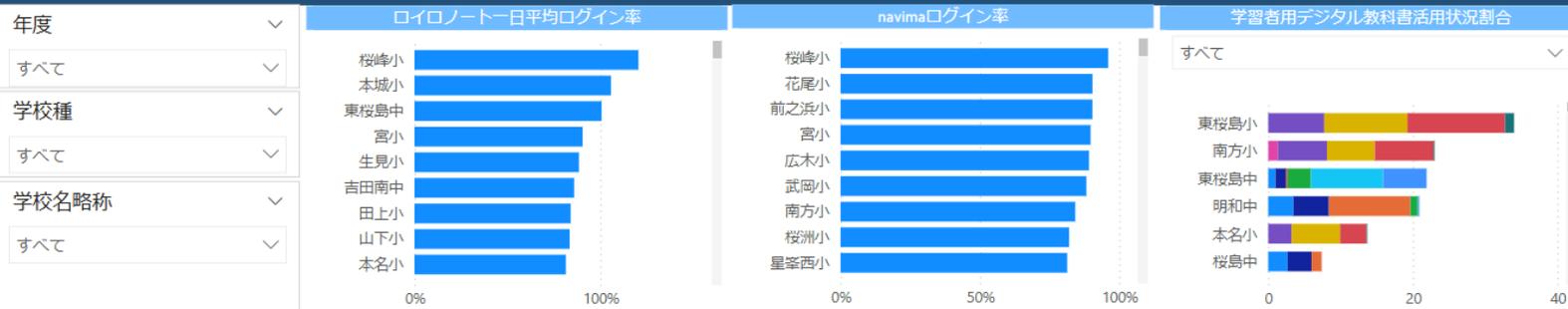
【分析結果】
小学校では、互いを認め合いつつ主体的に学ぶ姿勢があるほど自己肯定感が高いという傾向が、小学校・中学校共に(弱く)窺えた

【ネクストアクション】
 互いを認め合いつつ主体的に学ぶ姿勢を育むような学習指導を検討

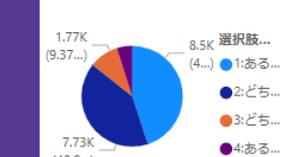
2.2.2 鹿児島市教育委員会の取組

主な分析結果とネクストアクション

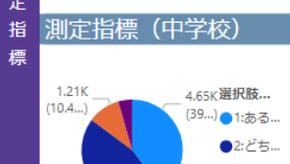
ICT活用のデータと測定指標（問：自分には、良いところがあると思いますか。）との比較



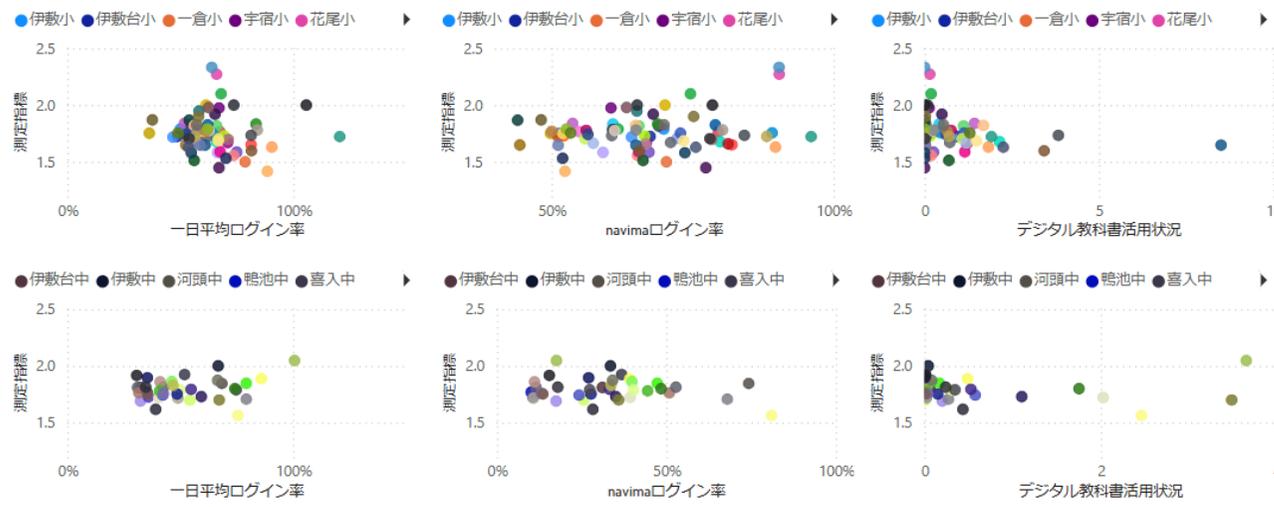
測定指標（小学校）



測定指標（中学校）



測定指標



【データ仮説】
ICTの活用率が高い学校である程、児童生徒の自己肯定感も高い

【分析結果】
ロイロノートログイン率・navimaログイン率・デジタル教科書活用状況が高いほど、児童生徒の自己肯定感が高いという傾向はあまり窺えなかった

【ネクストアクション】
※データの蓄積
特にデジタル教科書についてはデータの蓄積が開始されたばかりであり、更なるデータ蓄積を実施

2.2.2 鹿児島市教育委員会の取組

今後の展望

【事業所感】

- 仮説を踏まえデータを可視化することで、これまで経験や感覚に頼っていた施策の方向性に正当性や妥当性を持たせることができる可能性や、分析結果に基づいた新たな事業や施策の検討ができる可能性が示唆された。
- 散在していた各課所管のデータを収集・分析することで、教育委員会組織として、各課連携による教育施策の検討についての機運が高まるとともに、データ利活用の有用性を共有することができた。
- BIツールによって、データを視覚化することで、データが示す傾向や関係性等について、データ分析に馴染みの少ない教委職員においても理解しやすくなった。

【今後につなげたいこと】

- データ分析仮説に基づいて、一定の傾向が窺えた分析結果については、関連する他のデータとの関係性についても分析したり、経年変化について分析したりすることで、エビデンスとしてより精緻なものへ高めていきたい。
- 教育現場におけるデータの利活用については、誰もが容易に傾向や特徴等を把握することができるようにすることが肝要であることから、今回の分析方法を他のデータ分析等にも、適用可能な汎用的なフローを確立できるようにしたい。

【データ収集・利活用における留意点など】

- 収集するデータに表示方法の違いなどがあると、データクレンジングに時間を要するので、データを「文部科学省学校コード」等の標準化されたフォーマットに統一するよう教委全体で共通理解した上でデータ取得・保存しておく必要がある。
- 収集したデータから得られた分析結果は、可能な限り、児童生徒や学校に還元していくことで、データ収集に対する効果が認識され、理解が深まると考えている。したがって分析結果等の提供あるいは公開等の適切な方法について検討していきたい。

2.2.3 松戸市教育委員会の取組

事業参画の期待や意図

【部活動改革】 部活動の地域連携・地域移行 ※土日の部活動の地域展開

【基本理念】

松戸市スポーツ振興計画) だれもが一生涯スポーツに親しめるまち まつど

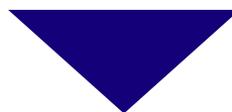
松戸市文化芸術振興基本方針) 次代を育む文化・教育環境の創造

「まつど・文化が香る街の継承と創造」～歴史・伝統を受け継ぎ、地域文化の進行を目指して

運動系部活動

(R5 全国) 陸上、サッカー、野球、ソフトボール、卓球 61名

(R5 関東) サッカー、野球、バレー、テニス、
ソフトボール、卓球、陸上、水泳 137名



文化系部活動「音楽の街まつど」

(R6 関東) 吹奏楽 8校

【方針】

部活動という集団での活動は、児童生徒の人間形成の機会や、教職員のやりがいや魅力となっていた。しかしながら、指導経験のない教職員にとっての負担感や、児童生徒が専門的な指導を受けられない、教職員の長時間勤務の要因となっていたことは否めない。そこで、本市では、多様な教育データを活用し、学校の働き方改革を踏まえた部活動改革を推進していく。

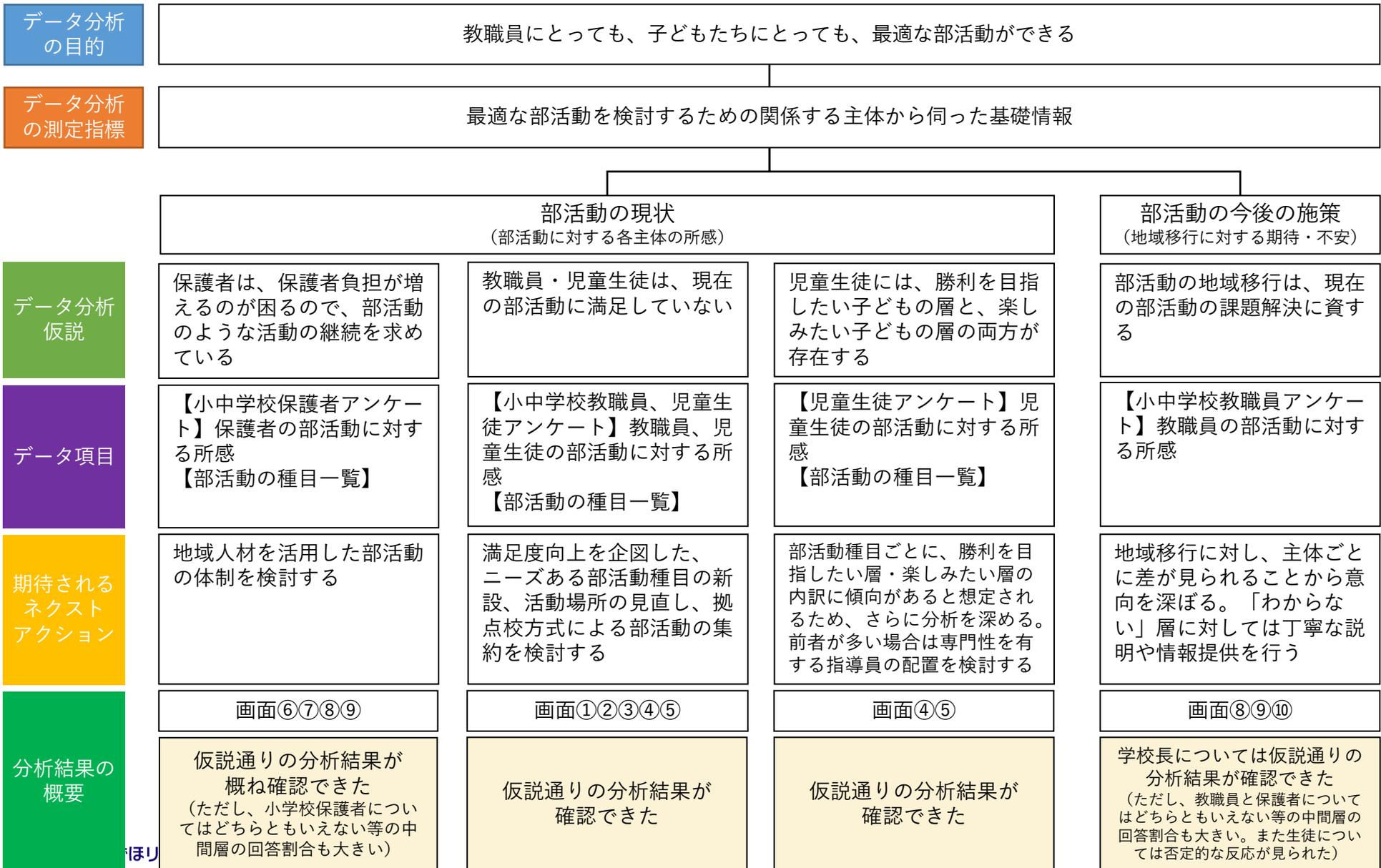
【仮説】

- ① 保護者は、保護者負担が増えるのが困るので、部活動のような活動の継続を求めているのではないか。
- ② 教職員・児童生徒は、現在の部活動に満足していないのではないか。
- ③ 児童生徒には、勝利を目指したい子たちと、楽しみたい子たち両方がいるのではないか。
- ④ 部活動の地域移行は、現在の部活動の課題解決に資するのではないだろうか。

※市内中学校20校

2.2.3 松戸市教育委員会の取組

ロジックツリーの説明

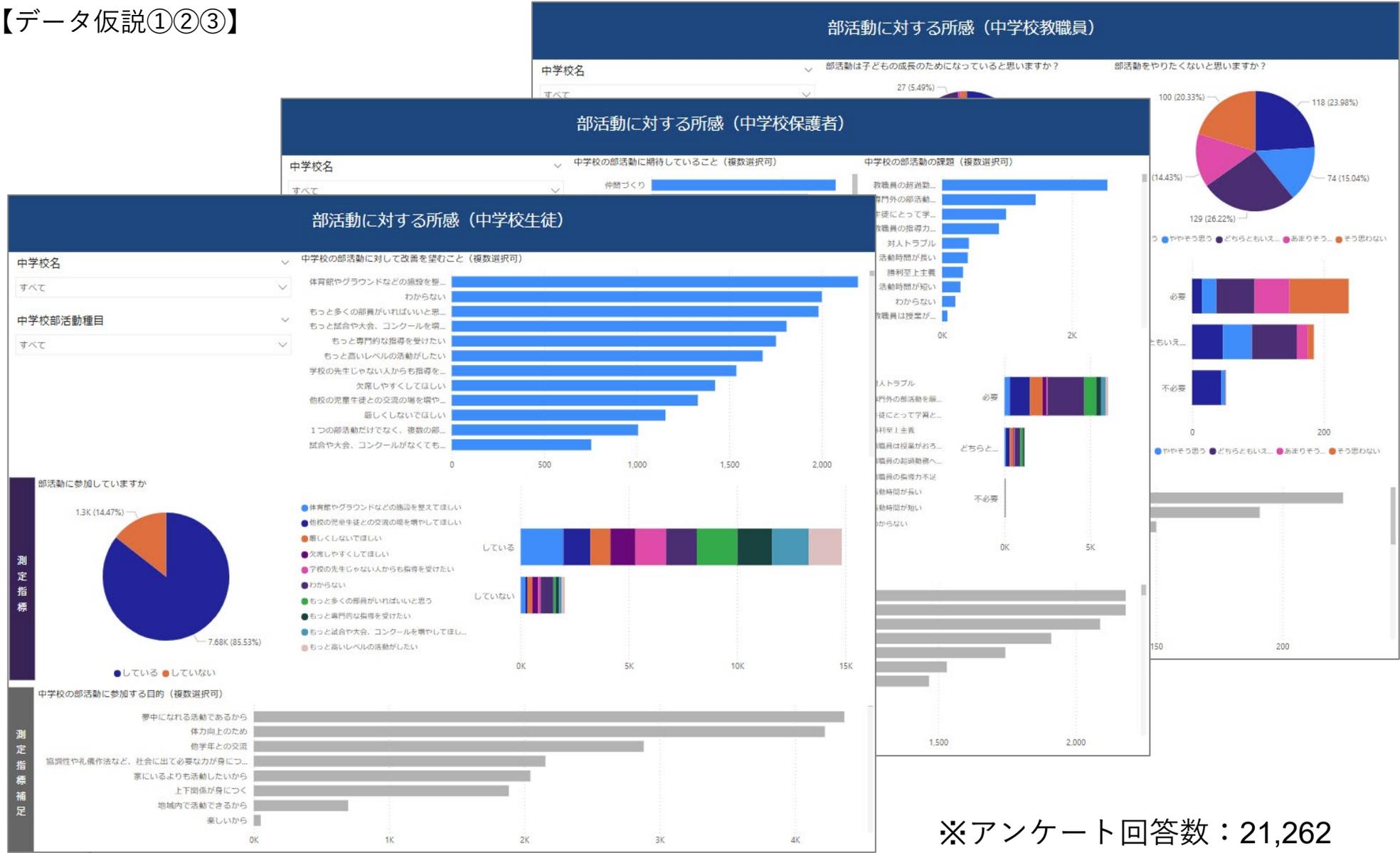


ほり

2.2.3 松戸市教育委員会の取組

主な分析結果とネクストアクション

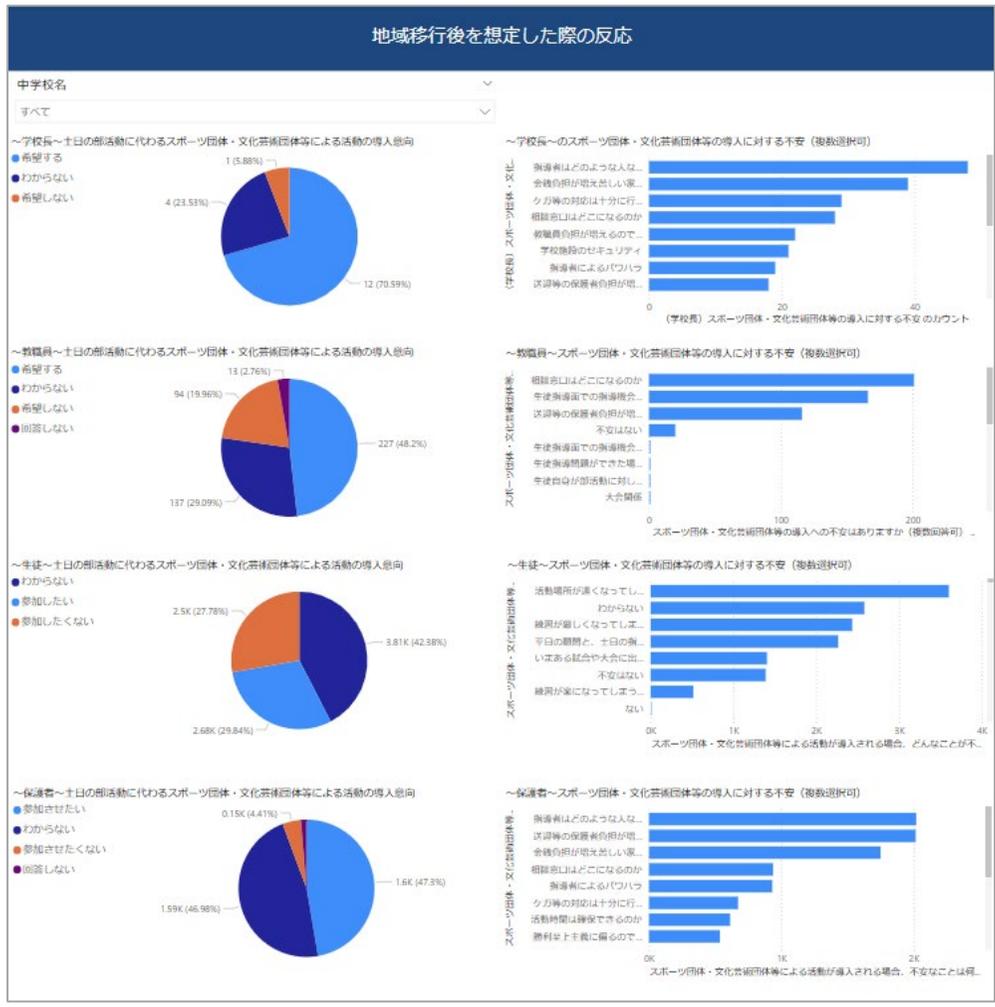
【データ仮説①②③】



2.2.3 松戸市教育委員会の取組

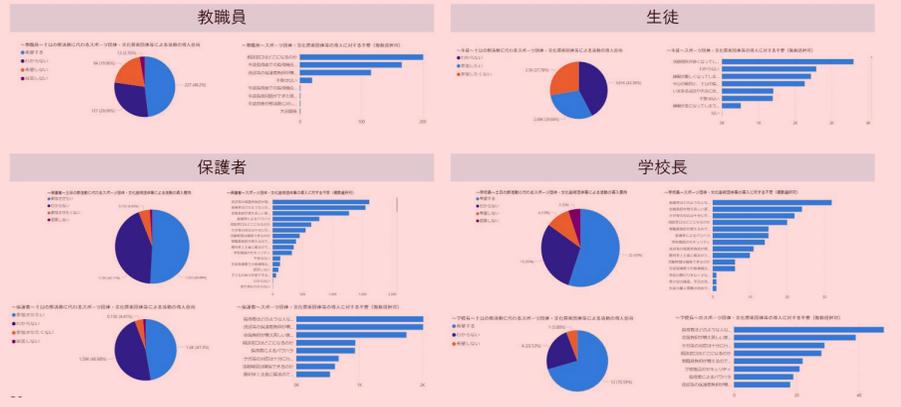
主な分析結果とネクストアクション

【データ仮説④】部活動の地域移行は、現在の部活動の課題解決に資する



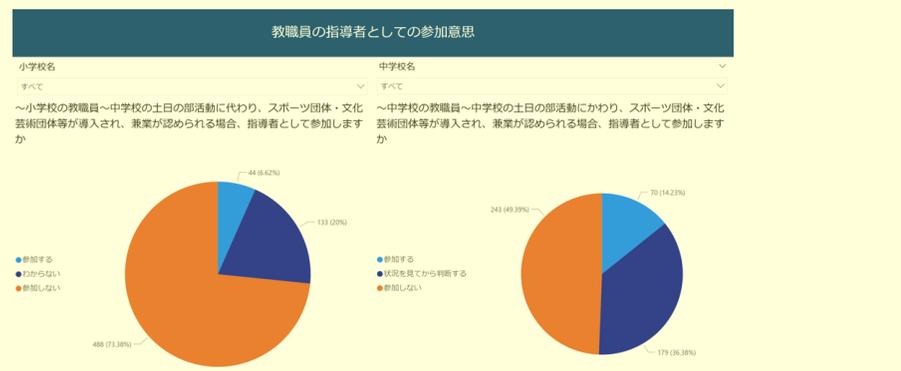
課題1：生徒の否定的な反応

部活動の地域移行の導入を希望すると回答した中学校の学校長は約71%、教職員は約48%、保護者は約47%存在する一方で、生徒は約30%に留まる。また、導入を希望しない生徒も約28%存在し、他の主体よりも割合が高い



課題2：教職員の兼業に対する意欲の低さ

中学校の土日の部活動に代わり、スポーツ団体・文化芸術団体等が導入され、兼業が認められる場合、指導者として参加すると回答した小学校の教職員は約7%、中学校教職員は約14%である。参加しないと回答した小学校の教職員は約73%、中学校教職員は約49%である



2.2.3 松戸市教育委員会の取組

主な分析結果とネクストアクション

松戸市 部活動地域移行 ロードマップ (案)

Ver. 20250128



2.2.3 松戸市教育委員会の取組

今後の展望

【事業所感】

- ✓ 分析結果からの新たな気づき、発見
組織をマネジメントしている学校長が、土日の部活動地域移行について希望してるということ。
「部活動を楽しみたい」という生徒のニーズが、多かったこと。
- ✓ データ利活用を本事業で行ったことによる成果
4者へのアンケート結果をわかりやすく可視化していただき、有用な検討資料となった。

【今後につなげたいこと】

- ✓ 本調査結果を受けて実施したいデータ利活用のイメージ
本市における部活動の地域展開（地域連携・地域移行）を推進させていく。
- ✓ 本調査結果を受けて実施したい教育施策
「部活動地域展開推進方針施策の策定」
- ✓ データ利活用において改善したいプロセス
データ収集（アンケート）において、データ量が多すぎて、処理に時間がかかってしまった。
データの集計や分析を見据えた調査実施（アンケートの質問項目や分岐ポイント設置など）を検討していく必要がある。

【データ収集・利活用における留意点など】

- ✓ 各自治体でのデータ収集・利活用を振り返った時の留意点
 - ・何を可視化し、どのような意思決定に役立てるのかを明確にすること。
 - ・ダッシュボードの見方やデータの背景を関係者に共有し、誤解や誤用を防ぐこと。

2.3 文部科学省教育データ利活用ワークシートの作成

- 地方自治体がデータ利活用を行う際に参照するためのドキュメントを作成し今年度参画した3自治体（2.1参照）において実際に活用。地方自治体の活用結果から得られた示唆を踏まえて、本事業における最終的な成果物として「文部科学省教育データ利活用ワークシート」（付録①「文部科学省教育データ利活用ワークシート.pptx」参照）を作成した。

初期ドキュメント作成



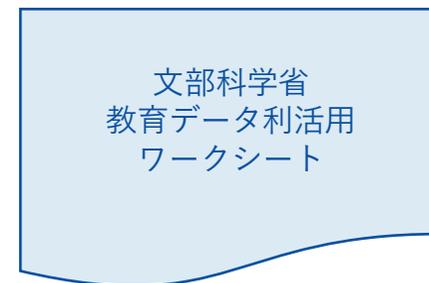
地方自治体における活用

複数の地方自治体にて実際に各ドキュメントを活用して検討を実施



最終ドキュメント作成

地方自治体が実際に活用することで得られた示唆を用いて、最終的なドキュメントを作成



※地方自治体の意見を踏まえ、1つのドキュメント内に「マニュアル」、「手順書」、「ワークシート」の要素を統合した

2.3 文部科学省教育データ利活用ワークシートの作成

文部科学省教育データ利活用ワークシートの概要

データ利活用に関する検討ステップ等を確認しながら、実際の検討を行う記入用ワークシートを備えているドキュメント。また、各ワークシートページ内には参考資料へのリンクを設定しているため、関連する情報へクイックにアクセス可能。

資料構成

【本編】

データ分析のステップに関する全体像
検討内容の最終的整理イメージ
教育データ利活用ワークシート

- データ分析のステップ① データ分析の目的設定
- データ分析のステップ② データ分析における仮説検討
- データ分析のステップ③ 仮説に合致するデータ項目検討
- データ分析のステップ④ データ収集・加工
- データ分析のステップ⑤ データ分析
- データ分析のステップ⑥ ネクストアクション検討
検討結果の整理

【参考資料①】 ワークシートに関する参考資料

【参考資料②】 過去の文部科学省事業において構築したダッシュボード事例

データ分析のステップに関する全体像

- 本資料では、データ分析の進め方を以下①～⑥のステップに分けています。

ステップ①
目的・測定
指標設定

“データ分析の目的”並びにその“測定指標”を設定します。
測定指標も設定することで、目的の達成度合いを定量的に確認できます。

ステップ②
仮説設定

目的達成に必要な課題に関連するデータ分析の仮説を設定します。
データ分析を行い検証することで、目的達成に近づくためのネクストアクションを検討できる“仮説”を設定します。

ステップ③
仮説検証に
利用する
データ項目
検討

データ分析の仮説検証に利用するデータ項目を検討します。
現在保有しているデータの種類や量、粒度といった現状を整理することで、データ分析を進めるための準備を行います。

ステップ④
データ
収集・加工

ステップ③で整理した複数のデータを収集し、分析に適した形式に加工します。

ステップ⑤
データ分析

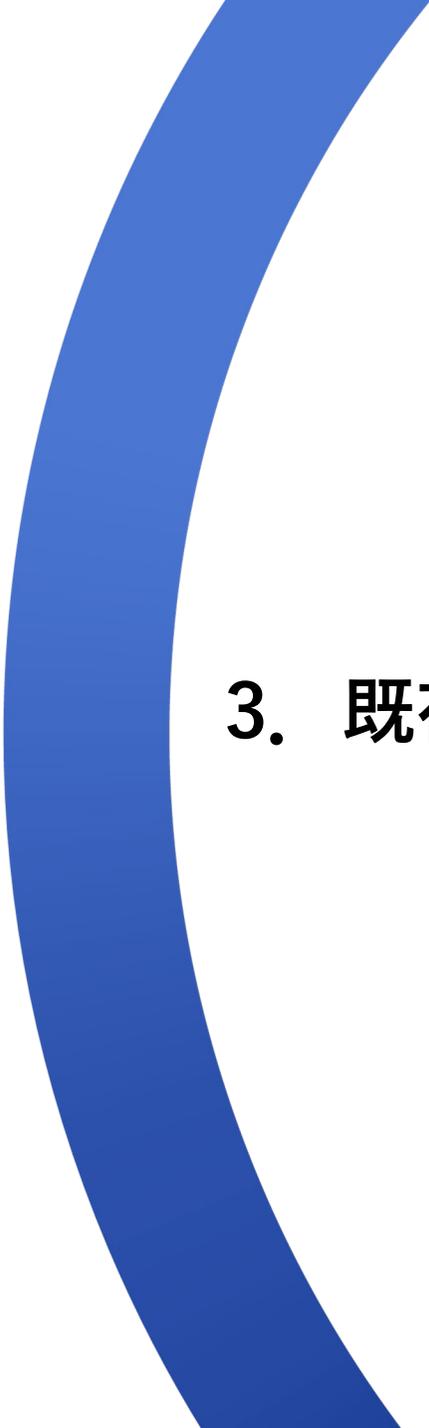
ステップ④にて収集・加工したデータを、分析用ソフトウェア（表計算ソフト、ダッシュボードツール、その他分析ソフト（Python、R言語等））を用いて分析します。

ステップ⑥
ネクスト
アクション
検討

データ分析結果を用いて改めてネクストアクションを検討します。
ステップ②で設定した仮説との整合性を検証し、仮説通りであれば想定していたネクストアクションを、仮説と違っていれば、次に必要なアクションを検討します。

- 地方自治体が教育データ分析を実施する際に参考となるよう、データ分析に関心のある地方自治体が集まるコミュニティを以下の通り開催した。

開催日時	テーマ	実施内容	参加者数
9/13 (金) 14:00-15:00	教育データ利活用の基礎	<ul style="list-style-type: none"> 教育データ利活用に関する最新情報 教育データ利活用の意義 教育データ利活用のプロセス 	約350名
10/7 (月) 11:00-12:00	データ利活用の先進事例ご紹介①	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度取組概要のご紹介 令和5年度に教育データ利活用の取組を行った自治体による講演 	約320名
11/11 (月) 14:00-15:00	データ利活用の先進事例ご紹介②	<ul style="list-style-type: none"> 前回コミュニティ（第2回）概要のご説明 教育データ利活用に関するパネルディスカッション 	約260名
12/12 (木) 16:00-17:00	教育分野内外でのデータ利活用事例の紹介	<ul style="list-style-type: none"> 有識者による教育内外でのデータ利活用事例の紹介 	約150名
1/21 (火) 10:00-12:00	データ利活用に関する研修	<ul style="list-style-type: none"> 「教育データのサイエンスによる教育データ利活用支援」（教育データ利活用の研修） 	約140名
3/18 (火) 11:00-12:00	今年度事業の成果報告	<ul style="list-style-type: none"> 今年度事業取組概要のご紹介 今年度事業に教育データ利活用の取組を行った自治体による講演 	約120名



3. 既存ダッシュボードのテンプレート化

- 本事業では、既にダッシュボードを構築している先進自治体（戸田市教育委員会）を選定し、当該自治体の知見を得ながら、全国の自治体で使える汎用的にダッシュボード（テンプレート）の構築を行うとともに、マニュアルの作成を行った。
- 具体的には、戸田市教育委員会に対し、2回のヒアリングを実施した上で、ダッシュボード（テンプレート）を試作し、さらにフィードバックを得たうえで完成させた。

※ ダッシュボード（テンプレート）は別途文部科学省ホームページに掲載。

※ マニュアルについては付録②「PowerBI利用マニュアル」を参照。

3.2 ダッシュボード（テンプレート）画面イメージ①

■ 画面①県学力・学習状況調査（作成したダッシュボード） 1/2枚目

絞り込み
学校名
学年
組
氏名
年度

学力レベルと学習方略のスコア一覧

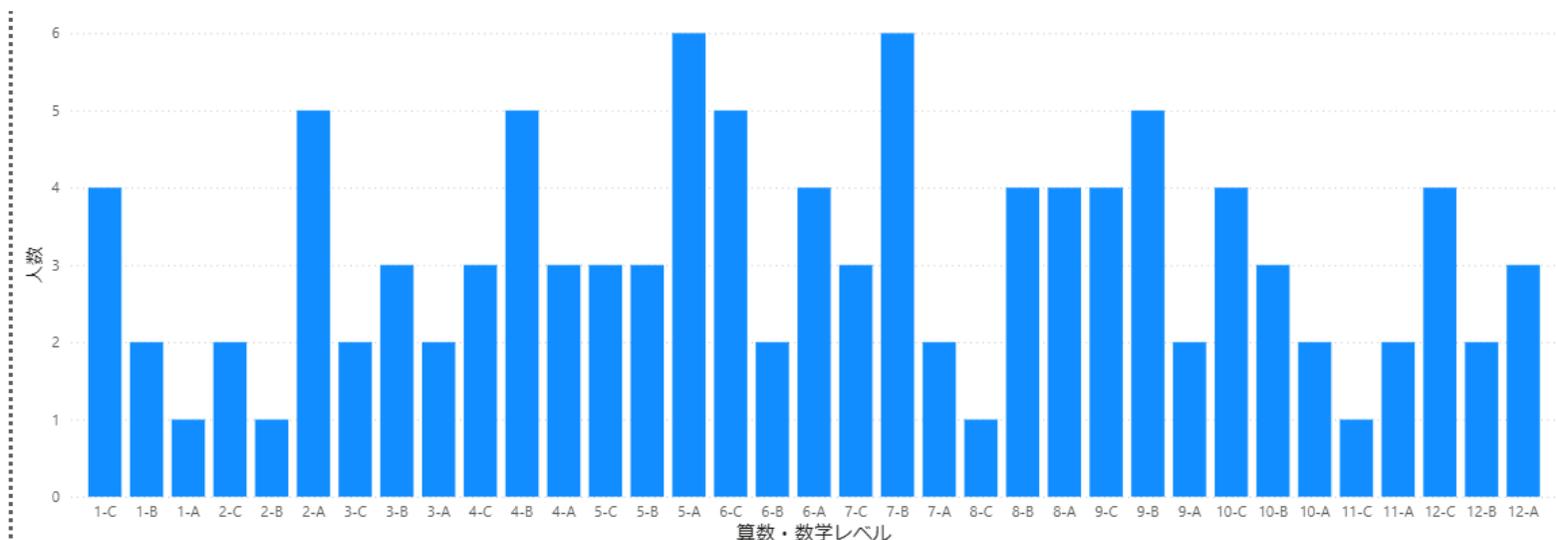
年度	氏名	ふりがな	学校名	学年	組	国語レベル	算数・数学レベル	主体的・対話的で深い学びの実施	柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	
2023	古賀 昭	こが あきら	YY市立AA小学校	6	2	2-A	1-C		0.20	3.90	0.75	3.80	2.50	4.10
2023	市川 辰男	いちかわ たつお	XX市立BB小学校	6	2	7-C	9-C		0.20	0.30	1.75	2.10	0.40	5.00
2023	川崎 正平	かわさき しょうへい	XX市立AA小学校	5	1	6-B	4-B		0.25	4.50	4.70	2.25	4.80	0.60
2024	小泉 千尋	こいずみ ちひろ	XX市立BB小学校	5	1	11-C	3-B		0.33	5.00	5.00	4.33	1.90	3.50
2023	小泉 光子	こいずみ みつこ	YY市立AA小学校	4	1	6-B	9-B		0.40	5.00	1.90	3.60	1.10	1.20
2023	五十嵐 博志	いがらし ひろし	YY市立AA小学校	6	2	7-C	7-B		0.50	2.66	2.66	5.00	0.30	3.50
2024	市川 辰男	いちかわ たつお	XX市立BB小学校	6	2	4-B	8-A		0.60	4.80	0.10	1.90	1.90	5.00
2024	小泉 光子	こいずみ みつこ	YY市立AA小学校	4	1	4-B	1-B		0.60	2.80	0.60	0.80	2.10	4.80
2023	田中 太郎	たなか たろう	XX市立AA小学校	4	1	1-B	8-B		0.66	5.00	1.75	5.00	3.70	1.75
2023	藤田 浩二	ふじた こうじ	XX市立BB小学校	6	1	4-B	1-C		0.66	1.25	3.10	3.25	4.30	0.90
2023	河村 千晶	かわむら ちあき	XX市立AA小学校	6	1	5-B	6-C		0.70	2.33	1.60	5.00	3.80	5.00
2023	松永 恵美	まつなが めぐみ	XX市立AA小学校	5	2	4-C	2-A		0.75	0.50	5.00	3.20	0.60	2.20

学力レベル別の人数分布

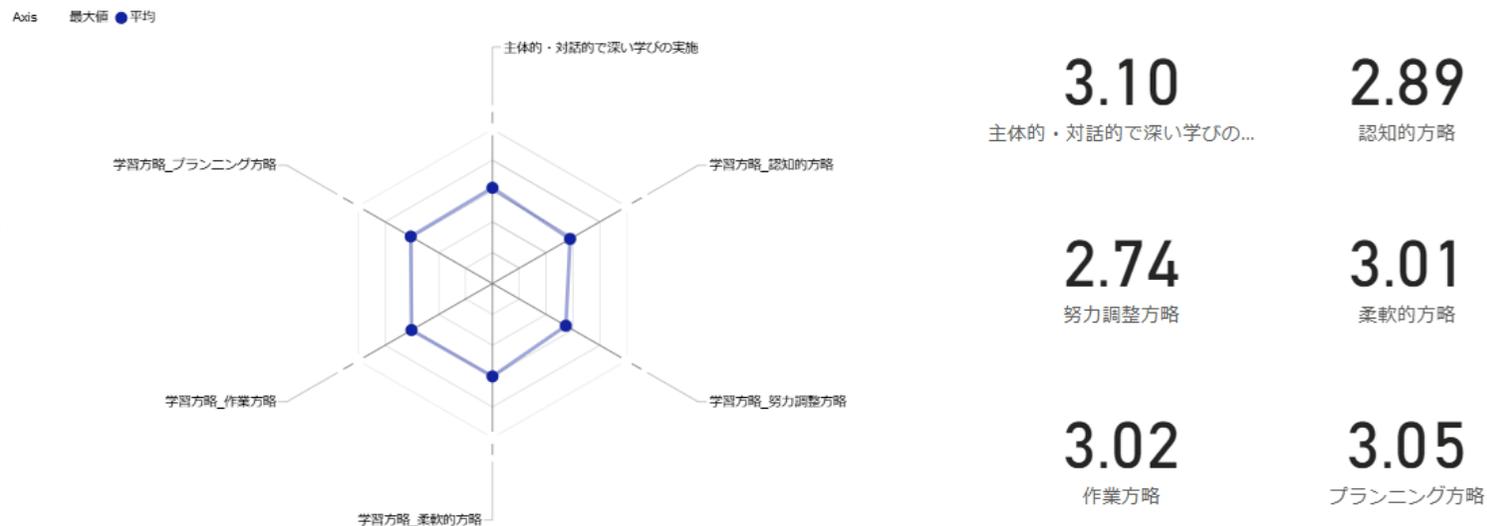
国語レベル	人数
1-C	2
1-B	2
1-A	3
2-C	1
2-B	1
2-A	3
3-C	3
3-B	3
3-A	1
4-C	5
4-B	10
4-A	4
5-C	2
5-B	2
5-A	1
6-C	3
6-B	6
6-A	2
7-C	4
7-B	3
7-A	3
8-B	2
8-A	3
9-C	2
9-B	3
9-A	1
10-C	3
10-B	4
10-A	4
11-C	2
11-B	4
11-A	5
12-C	5
12-B	2
12-A	4

MIZUHO みずほリサーチ&テクノロジーズ

■ 画面①県学力・学習状況調査（作成したダッシュボード） 2/2枚目



「主体的・対話的で深い学びの実施」および学習方略のスコア



■ 画面②出欠状況（作成したダッシュボード）

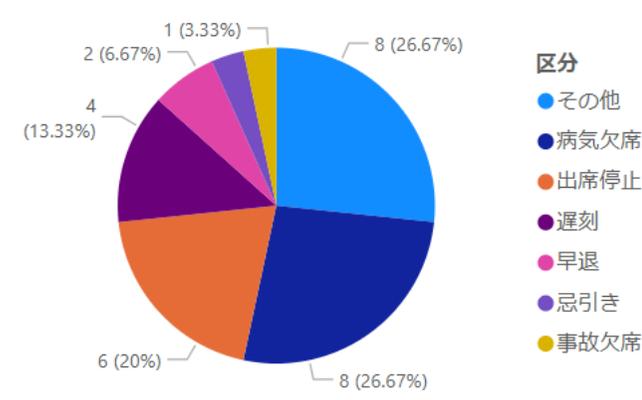
絞り込み

学校名 学年 組 日付

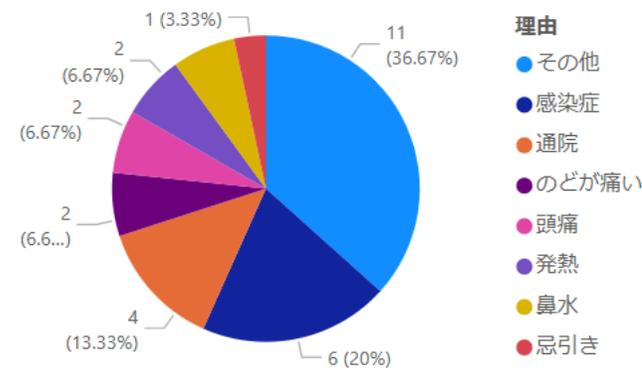
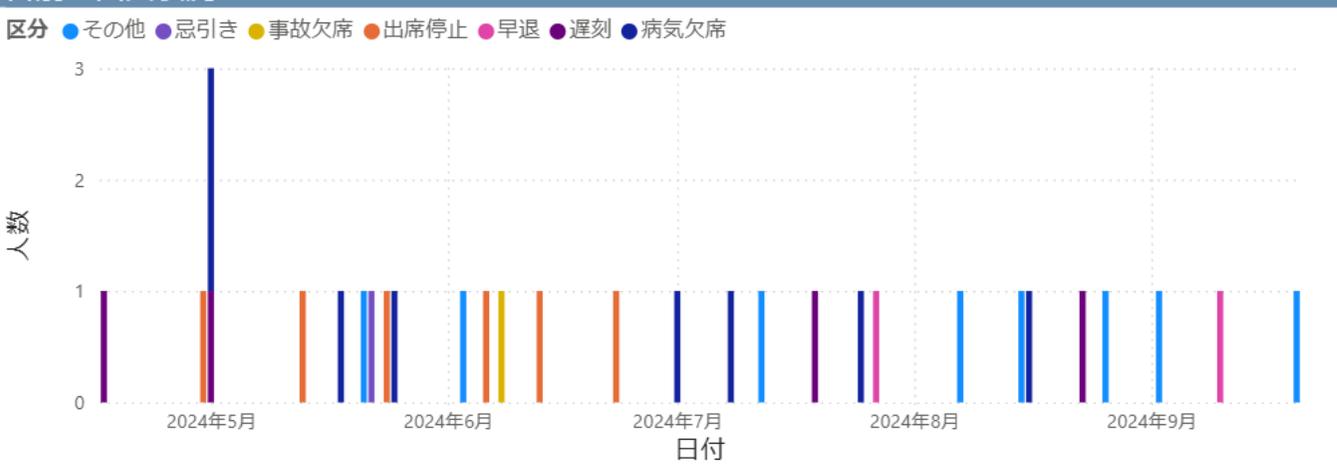
出欠状況データ一覧

年度	氏名	ふりがな	学校名	学年	組	日付	区分	理由	年度内の欠席遅刻早退
2024	上村 敏子	かみむら としこ	XX市立BB小学校	4	1	2024年5月21日	その他	その他	
2024	久保 智子	くぼ ともこ	XX市立AA小学校	4	2	2024年6月3日	その他	その他	
2024	田中 太郎	たなか たろう	XX市立AA小学校	4	1	2024年7月12日	その他	その他	
2024	野口 栄子	のぐち えいこ	XX市立BB小学校	6	2	2024年8月7日	その他	その他	
2024	尾崎 千春	おざき ちはる	YY市立AA小学校	5	2	2024年8月15日	その他	その他	
2024	川崎 正平	かわさき しょうへい	XX市立AA小学校	5	1	2024年8月26日	その他	その他	
2024	上村 敏子	かみむら としこ	XX市立BB小学校	4	1	2024年9月2日	その他	その他	
2024	水野 昌子	みずの まさこ	YY市立AA小学校	6	1	2024年9月20日	その他	その他	
2024	水谷 麻紀子	みずたに まきこ	XX市立BB小学校	4	2	2024年5月22日	忌引き	忌引き	
2024	水谷 麻紀子	みずたに まきこ	XX市立BB小学校	4	2	2024年6月8日	事故欠席	その他	
2024	中井 正三	なかい しょうぞう	YY市立AA小学校	5	1	2024年4月30日	出席停止	感染症	
2024	野口 栄子	のぐち えいこ	XX市立BB小学校	6	2	2024年5月13日	出席停止	感染症	

欠席・遅刻・早退の理由



日別の出欠状況



■ 画面③保健室利用状況（作成したダッシュボード）

絞り込み

学校名
 学年
 組
 氏名
 利用日

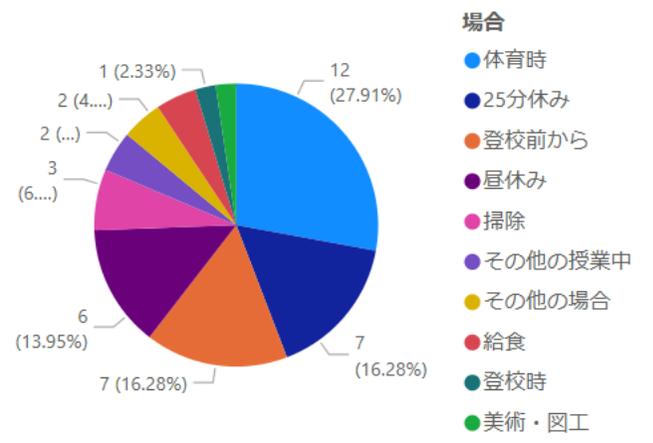
保健室利用状況データ一覧

利用日	氏名	ふりがな	学校名	学年	組	場合	場所	利用区分
2024年4月2日	村山 早紀	むらやま さき	YY市立AA小学校	5	2	昼休み	階段	外科
2024年4月3日	森本 二郎	もりもと じろう	XX市立AA小学校	4	1	25分休み	教室	外科
2024年4月5日	鎌田 浩二	かまた こうじ	XX市立AA小学校	4	2	体育時	運動場・校庭	外科
2024年4月10日	阿部 真紀子	あべ まきこ	XX市立AA小学校	6	1	登校前から	その他	内科
2024年4月15日	小田 弘司	おだ ひろし	XX市立AA小学校	5	1	昼休み	昇降口	外科
2024年4月17日	本田 優	ほんだ まさる	XX市立AA小学校	6	1	その他の場合	その他	その他
2024年4月29日	平山 絵美	ひらやま えみ	XX市立BB小学校	4	1	体育時	運動場・校庭	外科
2024年5月2日	小田 弘司	おだ ひろし	XX市立AA小学校	5	1	体育時	プール	外科
2024年5月6日	丸山 昭	まるやま あきら	XX市立BB小学校	5	2	美術・図工	教室	外科
2024年5月10日	望月 彩子	もちづき あやこ	XX市立BB小学校	4	1	25分休み	運動場・校庭	外科

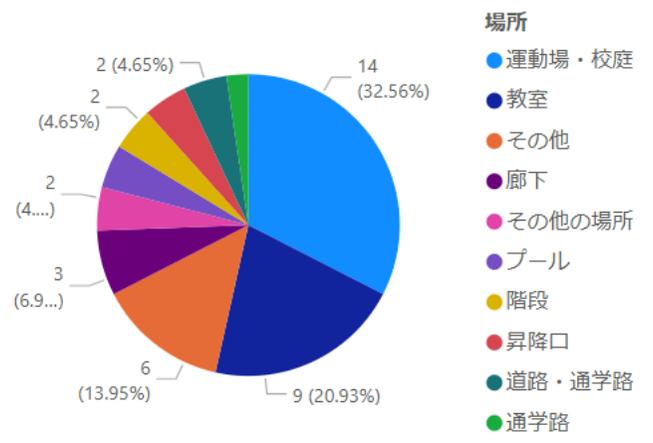
保健室を5回以上利用した児童生徒

氏名	学校名	学年	組	保健室利用回数
小田 弘司	XX市立AA小学校	5	1	6
古賀 昭	YY市立AA小学校	6	2	5
上村 敏子	XX市立BB小学校	4	1	5

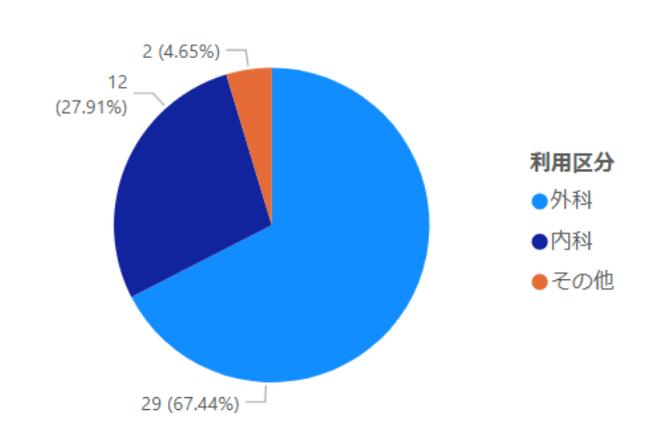
場合の割合



場所の割合



利用区分の割合



3.2 ダッシュボード（テンプレート）画面イメージ④

■ 画面④長期欠席調査（作成したダッシュボード） 1/2枚目

絞り込み

学校名 学年 組 氏名 年度

長期欠席者の人数とその主な理由

●その他 ●経済的理由 ●病気・怪我 ●不登校（家庭関連要因） ●不登校（学校関連要因） ●不登校（本人関連要因）

長期欠席調査データ一覧

年月	氏名	ふりがな	学校名	学年	組	当 欠 日
202406	久保 智子	くぼ ともこ	XX市立AA小学校	4	2	20
202404	久保 智子	くぼ ともこ	XX市立AA小学校	4	2	21
202405	久保 智子	くぼ ともこ	XX市立AA小学校	4	2	21
202407	久保 智子	くぼ ともこ	XX市立AA小学校	4	2	22
202301	松田 麻紀	まつだ まき	YY市立AA小学校	6	1	20
202302	松田 麻紀	まつだ まき	YY市立AA小学校	6	1	20
202303	松田 麻紀	まつだ まき	YY市立AA小学校	6	1	20
202304	松田 麻紀	まつだ まき	YY市立AA小学校	6	1	20
202305	松田 麻紀	まつだ まき	YY市立AA小学校	6	1	20
202306	松田 麻紀	まつだ まき	YY市立AA小学校	6	1	20
202307	松田 麻紀	まつだ まき	YY市立AA小学校	6	1	20
202308	松田 麻紀	まつだ まき	YY市立AA小学校	6	1	20
202309	松田 麻紀	まつだ まき	YY市立AA小学校	6	1	20
202310	松田 麻紀	まつだ まき	YY市立AA小学校	6	1	20
202311	松田 麻紀	まつだ まき	YY市立AA小学校	6	1	20
202312	松田 麻紀	まつだ まき	YY市立AA小学校	6	1	20
202406	上村 敏子	かみむら としこ	XX市立BB小学校	4	1	20
202404	上村 敏子	かみむら としこ	XX市立BB小学校	4	1	21
202405	上村 敏子	かみむら としこ	XX市立BB小学校	4	1	21
202407	上村 敏子	かみむら としこ	XX市立BB小学校	4	1	22
202406	水谷 麻紀子	みずたに まきこ	XX市立BB小学校	4	2	20
202404	水谷 麻紀子	みずたに まきこ	XX市立BB小学校	4	2	21
202405	水谷 麻紀子	みずたに まきこ	XX市立BB小学校	4	2	21
202311	水野 昌子	みずの まさこ	YY市立AA小学校	6	1	20
202310	水野 昌子	みずの まさこ	YY市立AA小学校	6	1	21
202404	水野 昌子	みずの まさこ	YY市立AA小学校	6	1	21
202406	川崎 正平	かわさき しょうへい	XX市立AA小学校	5	1	20
202404	川崎 正平	かわさき しょうへい	XX市立AA小学校	5	1	21
202405	川崎 正平	かわさき しょうへい	XX市立AA小学校	5	1	21
202406	中井 正三	なかい しょうぞう	YY市立AA小学校	5	1	20
202404	中井 正三	なかい しょうぞう	YY市立AA小学校	5	1	21
202405	中井 正三	なかい しょうぞう	YY市立AA小学校	5	1	21
202406	田中 太郎	たなか たろう	XX市立AA小学校	4	1	20
202404	田中 太郎	たなか たろう	XX市立AA小学校	4	1	21
202405	田中 太郎	たなか たろう	XX市立AA小学校	4	1	21
202406	尾崎 千香	おざき ちはる	YY市立AA小学校	5	2	20
202404	尾崎 千香	おざき ちはる	YY市立AA小学校	5	2	21
202405	尾崎 千香	おざき ちはる	YY市立AA小学校	5	2	21
202406	野口 栄子	のぐち えいこ	XX市立BB小学校	6	2	20
202404	野口 栄子	のぐち えいこ	XX市立BB小学校	6	2	21

「病気・怪我」の内訳

主たる欠席理由

- A-①
- A-②

欠席理由 詳細

- A-① 原因の中に精神的な問題に起因する症状があるもの
- A-② 原因の中に精神的な問題に起因する症状がないもの

「不登校（学校関連要因）」の内訳

主たる欠席理由

- C-②
- C-①
- C-③
- C-④
- C-⑤
- C-⑥
- C-⑦
- C-⑧

欠席理由 詳細

- C-① いじめ
- C-② いじめを除く友人関係をめぐる問題
- C-③ 教職員との関係をめぐる問題
- C-④ 学業の不振
- C-⑤ 進路に係る不安
- C-⑥ クラブ活動、部活動等への不適応
- C-⑦ 学校のきまり等をめぐる問題
- C-⑧ 入学、転編入学、進級時の不適応

MIZUHO みずほリサーチ&テクノロジーズ

3.2 ダッシュボード（テンプレート）画面イメージ④

■ 画面④長期欠席調査（作成したダッシュボード） 2/2枚目



■ 画面⑤心と体の健康観察（作成したダッシュボード）



ともに挑む。ともに実る。

MIZUHO

